

記 録	職・氏名 社会教育課(施策担当) 主事 飛弾野 冬華		
件 名	令和7年度第3回恵庭市社会教育委員の会議		
日 時	令和8年3月10日(火) 14:00~15:30	会 場	公民館(視聴覚室)
出席者	恵庭市社会教育委員 松田、井上、高橋、平井、佐藤、水野、茶園、根深、安中 市教委 (社会教育課)黒氏課長、津田主査、村山主査、飛弾野 (読書推進課)和合課長 (郷土資料館)高野館長		
<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 恵庭市社会教育委員の会議 委員長 松田 一則</p> <p>3. 議題</p> <p>【報告事項】</p> <p>(1) 「令和7年度社会教育事業報告」について …【資料1】</p> <p>社会教育課→読書推進課→郷土資料館の順に報告。資料1のほか、下半期に実施した事業のうち、特徴的な事業の写真をスクリーンに映しながら報告を行った。</p> <p>●下半期で実施した特徴的な事業</p> <p>【社会教育課】</p> <p>家庭教育支援、コミスク、はたちのつどい、子ども塾、公民館事業の紹介</p> <p>内容抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回のコミスクかふえ講師では、町内会で子ども育成部の活動を行っている方を講師に招き、活動内容のほか、仲間を増やして一緒に子どもを地域で育てることのポイントについて話してもらった。 ・はたちのつどいでは、新たな取り組みとしてハガキでの案内と、公式LINEの事前登録を併用した。また、実行委員会企画や、フォトスポットを導入した。 ・クリスマスピアノコンサートでは、ピアノやサクソ、少年少女合唱団など協力を得て、クラシックから子ども達になじみのある曲を演奏した。 親子でくつろげるようシート席も設けているが、人気の席となっているため、次年度以降範囲の拡大をしていきたい。 <p>【読書推進課】</p> <p>あそびわーど、朝倉かすみ氏講演会、図書館開館24時、家読講演会</p> <p>内容抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ボランティアゆりかご会主催のあそびわーどが5年ぶりに開催された、 			

今年度は「わらべうたの会 どんどんばし」から講師を招いた。事業の中では保護者と赤ちゃんが触れ合い、声をかけながら気持ちを伝えたり、歌を歌うなどした。

- ・11月に映画化された「平場の月」の作者を招いた講演会は、事前配布の入場整理券がすぐに予定数に達し、来館の大人63名の方が興味深く聞き入っていた。
- ・図書館開館24時では、市内在住の作家高杉氏からお話しいただき初開催をした「高杉六花物語賞」表彰式を開催し、小学生8名が書いた作品が受賞した。子連れの方だけでなく、大人の方のみで来場している方にも小学生の作品が表彰される様子を見てもらうことができ、とても良い機会だった。
- ・家読講演会では、当日参加者の半分は親子の参加があった。
この事業は、読書を通じてコミュニケーションを図ろうという、家読を推進するための講演会であり、まさに参加してほしい層の参加があり、家読の進め方を知ってもらう機会となった。また、質問の中では読みきかせで、上の子が聞いてくれないなど切実な声もあがっており、家読講演会らしい事業となった。

【郷土資料館】

- ・学芸員による展示解説は月に1回の開催、カリンバ祭りは年に1回の開催を行った中で、一部、文教大学生の学生ボランティアに協力してもらった。
- ・展示物は多くの方に見ていただきたいと考え企画展も検討しているが、展示物の損傷などの懸念から移動が難しいことから、黒曜石カービングなどの体験会を行っている。
- ・西島松5遺跡の出土品についてのシンポジウムでは、専門の講師を招き、パネルディスカッションにて意見交換を行った。また、この際には解説員を常駐させ、一部実物の展示を行った。

●質疑応答

A委員

- ・はぴナビカフェの参加者がとても増えているが、回数が増えたからか、リピーターが増えたからなのか、要因を聴きたい。
- （社会教育課）事業実施回数が増えている。
（B委員）NPO法人おはなが開催している「ひみつきち・親かふえ・ふれあいサロンおはな」のカフェのリピーターが増えたこと、参加者自体も増えたことが理由では
- ・クリスマスピアノコンサートについて、仕事で親子が参加する音楽会を行っているが、前だけではなく横にもお座席を作った。小さいお子さんと、前の席だと離席しづらく、椅子だと危ないという方が、横のお座席を利用しており、次回は横にもお座席を作ってはどうか。
- （社会教育課）お子さんの中でも、さらに年齢層に分けた対応が必要だと分かった。次回はそのように対応していきたい。

●質疑応答

C委員

- ・はたちの集いの企画がとても良かった。プレゼントは子どもたちが集めたのか？ 実行委員会が企業回ってプレゼントをもらっていたのか気になった。
 - （社会教育課）どのようなプレゼントにするかは実行委員会を選び、市で購入した。今年度は、撮影用のアイテムについては社会教育課で企業への依頼をしたが、次年度以降についてはまた検討していきたい。
- また、社会教育課から実行委員会に対しアドバイスは行うが、あくまで実行委員会の主体性に任せて企画を実施することから、プレゼント企画を次年度も継続していくかは未定。

【協議事項】

（１）令和８年度恵庭市の社会教育 …【資料2】

※第6期生涯学習基本計画に合わせて、様式のフォーマットを変更

【社会教育課】家庭教育支援、地域学校協働活動、えにわっこジュニアセミナー
子ども塾、長寿大学、市民文化祭、えにわ学講座、市民文化祭
彫刻の寄贈等、公民館事業

- ・芸術文化作品の展示拠点整備については、R8年度より検討開始予定のため、今後ご意見等いただくなどの協力をお願いしたい。

【読書推進課】

- ・島松分館の島松複合施設移転に伴い、一部無人開館を実施する。
恵庭分館同様に、図書館員の不在時にも利用可能な一部無人開館とロッカーの貸し出しを行う。
- ・12月に図書館システムの更新を行っており、システムの機能として入ったオーディオブックも含め、市民の皆さんに周知をしていく。
- ・小型移動図書館車については、昨年度は試行期間であったが、令和8年4月から12月まで実施していく。

【郷土資料館】

- ・カリンバ遺跡の整備について、専門委員と議論を重ねた結果、令和8年度から2年間、環境整備の工事を行うこととなった。史跡の中に園路を作り、歩けるようにすると共に、遺跡の理解が進むよう解説板を整備予定。
- ・子どもの雑誌展について、展示物は決まっていないが、これまで市民の方から寄贈を受けた収蔵資料の中から、子ども用の雑誌や付録を展示するもの。
- ・カリンバ講演会をえにあすで実施予定。「カリンバ遺跡」にかかわらず、市内の遺跡について紹介。西島松5遺跡を中心に講師を招く予定。

（２）文化功労者表彰について …【資料3】

【社会教育課】

文化活動で活躍する青少年の表彰にあたり、審査委員会において、社会通念上、青少年を「文化功労者」として取り扱うのは、慎重に期すべきではないか

との意見が以前より挙がっていた。一方で、審査委員会としても事務局としても、活躍する青少年を漏れなく表彰したいという共通認識があったことから、内部で整理し、資料3のとおり条例の名称変更、表彰の種類を新たに増やすことを検討している。

●質疑応答

A委員

- ・青少年文化賞を追加することで、既存の賞は大人を対象とするということか
 - （社会教育課）文化奨励賞・文化賞で子どもを表彰することも考えられるが、文化賞は一生に一度であるため、今後、それ以上の成績を残した際には受賞することが出来なくなってしまう。受賞区分においては、審査委員会で適切な受賞内容が検討されていく。

D委員

- ・一般の文化賞で審査していくこととなると思うが、全国青少年大会など、青少年を対象とした大会の場合には青少年文化賞で対応した方がいいのではないかと審査会で議論されていくということが分かった。

【その他】

（社会教育課より）

- ・次への一步、コミスクだよりの周知、委員改選の案内
- ・鈴木吾郎の彫刻記念展の案内(5/29～6/14)
- ・ユネスコチャリティーコンサートの開催について(3/14)

（読書推進課より）

- ・本のリサイクル市の開催(5/24)
- ・市民が意見を出し、北海道内の市のなかで最後に市立図書館ができたその頃から、学校図書館司書の配置、ブックスタートなどがの事業がこれまでずっと続いていることこそが、本の力でまちをつくるという先進的な事例だということをもとめた「本の力でまちづくり」という本を北海道文教大学の地域創造研究センターが作成した。
- ・「恵庭まちじゅう図書館」の取り組みについては、現在30件程度しかないが、条例が出来たときは50件近くあったことから、どう盛り上げていくかを全館ヒアリング調査するなど、読書推進課で一緒に関わってきた。
市立図書館にも蔵書するが、まちじゅう図書館にも蔵書するため、見かけたら是非読んでほしい。

（郷土資料館より）

- ・アイヌ文化マスター育成事業を実施しているが、今年度、参加者が少なかった。参加した保護者の方から参加したあとの子どもの成長が著しいとの声も上がっているため、是非多くの方に参加していただきたく、興味がある方がいればお知らせしてほしい。

以上

